

「私の生まれ故郷カタロニアの鳥は、ピース、ピースと鳴くのです」——パブロ・カザルス

～平和祈念の調べ～

演奏活動60周年

愛弟子 平井丈一朗が 恩師パブロ・カザルスに 捧げる特別演奏会



平井丈一朗

2014年12月2日(火)

18時開場 18時30分
～50分プレトーク 19時開演

全席自由 4,500円(税込) 学生 2,000円(税込)

新潟市音楽文化会館

演奏：平井丈一朗(チェロ) 平井元喜(ピアノ)
指揮：平井秀明 合唱：新潟市ジュニア合唱団

●主催：BSN新潟放送

●企画：TBS Vintage Classics

●協賛：BOCO 工業社 大林組

三井物産(株)新潟支店 株式会社 光岡自動車

●後援：新潟市ユネスコ協会

●協力：日本クラシックソムリエ協会

プレイガイド

新潟市音楽文化会館・新潟県民会館・新潟伊勢丹・トップラベル新潟(DeKYY401)・文信堂CoCoLo万代(新潟駅ビル地下)

セブン・イレブン(セブンコード:034-145)・インフォメーションセンター(メディアシップ)・コンシェルト

*未就学児童の入場はご遠慮ください。

お問い合わせ BSNイベントダイヤル

025-247-0900

平井丈一朗は明日の音楽界に

大きな希望をもたらす存在です。

平井こそは、私の後継者となるでしょう。

パブロ・カザルス



写真提供：平井丈一朗

パブロ・カザルス

(1876年12月29日 - 1973年10月22日)

スペイン・カタロニア地方生まれの20世紀最高のチェリスト。現代のチェロ奏法を確立し、チェロの表現力を高めた。指揮者、作曲家としても活躍。

また、生涯にわたり、音楽を通じて「世界平和」を願う運動を続け、国連平和賞を受賞。世界で最も敬愛される偉人のうちのひとり。

平和を希って、愛を込めて。今こそ、新潟から美しき音楽の祈りを。

1914年、第一次大戦にはじまったこの100年。それは、まぎれもなく「戦争の世紀」だった。しかし、いつも硝煙の向こうには、パブロ・カザルス(1876-1973)が屹立していた。チェロを抱え、時には指揮棒を持ち、彼は、比類なき音楽で「平和の心」を伝え続けた。冷戦激しき頃、国連総会議場で、ホワイトハウスで、彼が奏でた「鳥の歌」。それは、美しき伝説である。最高峰の音楽芸術は、同時に軋む世界にとって、奇跡の福音だった。

そんなカザルスのおもかげを伝える人がいる。カザルスの気品とカザルスの福音を持つ人がいる。平井丈一朗氏。1937年、東京生まれ。高名な作曲家、平井康三郎の長男として幼少より厳格な音楽教育を受けた。戦火、空襲を生き延びた。少年ピアニストとして活躍。その後、チェロに出会った。19歳のとき運命の扉が開いた。カザルスと出会い、世界でただ一人の愛弟子となった。カザルスは、「平井丈一朗は、私の愛情と音楽とチェロについてのすべてのものを受け取りました。私は、今まで彼のような弟子を持ったことがありません」(1961年、カザルスの来日挨拶)と語り、平井氏を自らの後継者に指名した。

今年3月、偶然にカザルスと平井丈一朗氏の音楽記録が半世紀ぶりに発見された。1961年、カザルスが生涯ただ一度來日した際の演奏音源である。平井氏は、それを偶然と考えていない。カザルスの魂が今、私たちに呼びかけている。そう感じている。カザルスが音楽に込めた「平和への祈り」が今こそ必要なのではないか。そう考えている。

77歳、平井丈一朗氏は、喜寿にして立ち上がった。二人の息子たち、指揮者の秀明氏、ピアニストの元喜氏が共鳴した。カザルスにちなんだ音楽に平井家の音楽がプログラムに加わった。「とんぼのめがね」など康三郎の唱歌、丈一朗氏が演奏地新潟の大震災周年に捧げた新曲、秀明氏の抒情あふれるオペラである。カザルスと平井氏。その師弟愛と音楽一家三代にわたる愛に結ばれた平和演奏会をどうぞお楽しみください。



平井一家 (左から、丈一朗、秀明、元喜、康三郎)

プロフィール

平井丈一朗 (作曲、チェロ)

作曲家平井康三郎の長男として東京に生まれ、小学校時代すでにピアノ協奏曲ほか約100曲を作曲し、ピアノで演奏会、放送にしばしば出演。また桐朋学園でチェロを斎藤秀雄氏に師事。第23回日本音楽コンクール第1位特賞、第1回文化放送音楽賞特賞、第1回カザルス国際コンクール特別賞、ソ連作曲家同盟特別賞など数々の内外コンクールで受賞。1957年より5年間、パブロ・カザルスに師事。師とともに欧米各地を旅しつつ研鑽を積み、チェロ音楽の蘊奥を究めた。1961年4月、カザルスは愛弟子の晴れの帰国デビューを飾るために来日し、平井は恩師の指揮により、東京と京都でドヴォルザークなど四大協奏曲を演奏、皇太子・美智子妃殿下(当時の御来臨を得て華々しくデビュー)。以来ソリストとしての演奏活動は全世界40カ国にも及び、至る所で輝かしい成功を収めている。1988年「第1回世界チェロ大会」で特別ゲストとして演奏(ナンシー・レーガン大統領夫人の招待)。1992年世界飢餓救済のワールド・ハンガー・コンサートに尽力。1995年「平井丈一朗アッシュビッツコンサート」(ボーランド)。2011年「東日本大震災被災地支援チャリティリサイタル」を行い、被災者の安らぎを願った新曲「祈りのアリア」を演奏した。

平井元喜 (ピアノ)

平井丈一朗の長男。幼少よりチェロを父平井丈一朗に、ピアノと作曲を祖父平井康三郎に師事。米国ロチェスター大学政治学科卒業。95年、チェコのカルロビ・ヴァリ響を指揮し、ヨーロッパデビュー。第6回フラデツ・クラーロベ国際指揮者コンクールで第1位。2000年、ヤナーチェク・フィル定演にデビュー。東京フィル、新日本フィルをはじめ、殆どの国内主要オケに度々客演する一方、オペラ指揮者としても「椿姫」、「蝶々夫人」、「ラ・ボエーム」、「カルメン」などを指揮。新国立劇場では「フィガロの結婚」、「セルセ」ほかを指揮して絶賛された。自作オペラ三部作の「かぐや姫」、「小町百年の恋」、「白狐」(2013年12月、新潟県妙高市の委嘱で、岡倉天心絶筆の英語台本を翻訳・台本・作曲・指揮を行い初演)はザルツブルク、プラハ、豪州など内外で30回以上再演を重ねている。2010年11月、チェコ・ヴィルトゥオージ室内管の首席客演指揮者に就任。2014-15シーズンより、ニューヨーク祝祭管弦楽団の音楽監督に就任。

www.takeiichiro-hirai.com

今年2月、53年振りに発見された「奇跡の録音」を是非お聴き下さい。

TBS Vintage Classics シリーズ⑯ ボッケリーニ & ドヴォルザーク: チェロ協奏曲

平井丈一朗とカザルスの師弟愛が響き合う、貴重な日本公演のライヴ録音。
カザルスの肉声も収録。

収録内容

アナウンサーによる解説

ボッケリーニ(グリュッツマッハ編): チェロ協奏曲 変ロ長調

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 口短調 作品104

〈スペシャルトラック〉

カザルスのあいさつ(羽田空港到着時の記者会見より)

平井丈一朗インタビュー

平井丈一朗(チェロ)

パブロ・カザルス指揮、東京交響楽団

録音: 1961年4月14日 日比谷公会堂

SACDハイブリッド 品番: TYGE-60021

価格: ¥3,394(税込)

ユニバーサルミュージックジャパン

■このディスクは通常のCDプレーヤーと

SACDプレーヤーどちらでも再生できます。

